

様式(細則 5-2)

平成23年 月 日

浜田市議会議長 牛尾博美様

議員名 川神 裕司 (印)

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 23年 2月 2/ 日 ~ 2月 22日

2. 視察又は訪問先

東京都新宿区市ヶ谷「防衛省」

3. 調査経費

30,700 円

4. 調査研究活動の概要

- (1) 朝鮮半島情勢にかゝる日本海沿岸の防衛体制について
- (2) 浜田市Aの海上自衛隊 行動拠点基地誘致の可能性について



現在北方領土問題、尖閣列島沖漁船衝突、朝鮮半島の不穏な動きに代表されるように、緊迫した事情が発生し、日本を取り巻く国際情勢は大きく変化をしてきている。まさに外交問題や国の安全保障の在り方は日本の行く末を大きく左右する最重点課題と認識している。とりわけ北朝鮮の核開発問題等により私たち浜田市を含む日本海沿岸地域の緊張感は大きく高まっていることは間違いない。つまり環日本海における政治的安定は喫緊の課題であり日本海沿岸の防衛戦略は極めて重要と考えている。

昨年「新防衛大綱」が発表され今後の日本の国防の方向性が示された。たしかに大綱において具体的な環日本海における防衛戦略は明示してはいるが、朝鮮半島の有事勃発やその他の事象により国民保護法発動が行われれば浜田港の機能的存在意義は大きく高まるのは必至である。以前県立大学の教授陣との懇談会において、北朝鮮クーデター想定 of 危機管理のレクチャーを受けた。浜田周辺の海岸線の防備や武装難民受け入れのシュミレーションは行うべきとの話であった。その場合地元警察と自衛隊の連携は不可欠であり、自治体としても最悪を想定した行動計画も必要とのことであった。さらに重要港湾浜田港の果たす役割は高く、対岸への監視機能や一定の抑止力の保持のため、海上自衛隊の行動拠点の誘致も大きな選択肢とのことであった。

私も今までの経緯や防衛協会の活動、自衛隊協力団体連合等の動きを見ながら、浜田港に海上自衛隊行動拠点基地誘致に取り組んできた。議会一般質問においても、浜田港機能強化、利用促進の観点から海上自衛隊行動拠点基地誘致を訴えてきた。それがひいては地元経済の高揚と浜田市の特性を発揮するものと考えます。

今回は防衛省にお帰りになった元島根県自衛隊協力本部長の吉長氏、現技術研究本部 2 等陸佐の北崎尚哉氏、その他関係者の方々との懇談、研修を行ってきました。その要点を報告させていただきます。

#### (1)朝鮮半島情勢にかかる日本海沿岸の防衛体制について

山陰地区は総延長約1,000Kmにも及ぶ海岸線を有し、特に島根県においては原子力発電所が存在することから、北朝鮮からの核および弾道ミサイルによる攻撃、ゲリラ特殊部隊の下法潜入及び同人らによる攻撃、不審船の巡航等の脅威にさらされている状況。また韓国による不法占拠によりわが国の主権が行使できない状態にある竹島問題を抱える等、安全保障上の大きな問題が存在している。

この現状は防衛省も十分認識しており、今後の環日本海の平和のために十分戦略を検討する必要があるとのことであった。また沿岸部の自治体の多角的な協力体制の構築が不可欠で、国が主導する部分と地方自治体が敏速に対応できる部分があり決して国がすべての責任を遂行するという考え方ではなく、国と地方、官民一体の活動展開が求められているとの話であった。

## (2) 浜田市への海上自衛隊行動拠点基地誘致の可能性について

(1)の話の流れから言えば、山陰地区の防衛力強化及び抑止力として浜田港の存在効果を期待したいところです。北朝鮮と一衣帯水の関係にある日本海沿岸を警備する我が国の海上自衛隊の舞鶴地方隊の警備区域は、北は青森から西は山口県まで1,200kmに及び広範囲です。島根県では唯一の国際コンテナ貿易港をもつ浜田にとっては、外国船の入港船隻も年々増加し現在ではロシア貿易も相当な実績を上げています。

また三隅港には火力発電所があり県西部に萩・石見空港を有する地形です。県西部と山陽広島側を高速道路で結ばれており重要な交通の要衝でもあり、テロや集団難民が山陽側に潜入する可能性も否めません。このようにいつ何時外部からの圧力を受けるか分からないのが現実です。幸い浜田港福井地区には暫定3万トンバースが整備され、平成26年には、新北防波堤がほぼ完成予定で大型船の入港が円滑に行われることとなります。

浜田港はテロ対策等における高速艇や護衛艦等の停泊地、既存の石油タンクを利用した燃料補給基地としての能力があります。浜田港は舞鶴海上自衛隊と佐世保海上自衛隊の警備境界線の上に位置し両基地の相互連携の結節点としても可能性があると考えています。

防衛省関係者からは、提案内容はよく理解するとした上で、自衛隊全体の組織編制による人員減、対岸への刺激、今後の日本海防衛戦略等も総合的に判断しなくてはならないとのこと。しかしながら極めて重要な課題であるため、今後議論をする必要もある。行動拠点基地誘致という概念は薄いが多く自衛艦の入港により浜田港が一定の評価をされれば次の一手があるかもしれないとも述べられた。いずれにしても、まずは自衛隊艦艇の入港促進計画を立て市民を挙げて迎えてくれれば自衛隊とより強い信頼関係が構築されるのは言うまでもないとのこと。

今後防衛協会との連携や舞鶴、佐世保両基地に出向き艦艇入港のお願いをすることが第一歩と感じ、今後の研究テーマとしたいと思います。